

kanagawa ARTS PRESS

神奈川芸術プレス Vol.157

2 | 3
2021



CREATOR'S VOICE 176
成田達輝

「Toshi伝説」—柳慧芸術総監督就任20周年記念

撮影:新江周平

音楽堂室内オペラ・プロジェクトブルーノ・ジネ作曲「シャルリー〜茶色の朝」
新シリーズ「音楽堂ヘリテージ・コンサート」年間ラインナップ
第108回舞台芸術講座 チェンバロの魅力VIII Mélanger〜混ぜる

隔月刊:奇数月15日発行

中学時代、朝起きる時の目覚ましは
シュトックハウゼン「ヘリコプター弦楽四重奏曲」でした。

「Toshi伝説」—柳慧芸術総監督就任20周年記念 共鳴空間〈レゾナントスペース〉 エクストリームLOVE

神奈川県民ホール

神奈川県立音楽堂

成田達輝 ヴァイオリニスト



— 柳慧芸術総監督就任20周年記念「Toshi伝説」を彩る豪華な演奏陣の中で、一人だけ、二つの演奏会に登場するのが成田達輝さん。今や引つ張りだこの人気ヴァイオリニストだが、彼の強みは、華麗なテクニックだけではなく、知的かつ周到に練られた音楽へのアプローチにある。これまでのキャリアや現代音楽との出会い、そして「Toshi伝説」に向けての思いなどを伺った。

5時間通学からパリへ

— 高校時代は、群馬県の前橋から、桐朋学園まで通っていたとか。

毎日、新幹線を使って片道2時間半かけて通っていました。往復5時間。同級生では一番、家が遠かったはずですが。しかも学校で友だちとアンサンブルなどをしているとすぐに夕方になってしまふ。仙川駅の横の「ラーメン二郎」を食べてから鈍行の電車で帰ったりすると、家に着く

のは夜1時頃で。

— 「二郎」のあとに鈍行で…確かに、もう新幹線の終電もないですよ。

で、翌朝も朝6時半の電車に乗るわけですから、まあよくやっていました。十分な練習時間を取るのが大変だったのでは？

ええ、ただ長い通学時間の中で譜面を読んだりしながら、いつも頭の中ではヴァイオリンを鳴らしていた気がします。

— むしろ、そういう自省の時間か、いまの成田さんを作っているのかもしれない。

そういえば、乗ったバスにたまたまお客さんが誰もいなかったとき、ヴァイオリンを出してさっさとしましたこともあり。たしか「タイスの瞑想曲」を弾いて、運転手さんともとても喜んでくれた(笑)。

— 大学はパリ音楽院に進学されました。

高校を卒業したあと、わりあいすぐにパリに渡ったのですけれども、その年のロン・ティボー国際コンクールに入賞したときに、ようやく足掛かりを見つけた気

成田達輝
Narita Tatsuki

1992年生まれ。札幌で3歳よりヴァイオリンを始める。ロン＝ティボー国際コンクール(2010)、エリザベト王妃国際音楽コンクール(2012)、仙台国際音楽コンクール(2013)でそれぞれ第2位受賞。これまでに、ペトル・アルトリヒテル、オーギュスタン・デュメイ、ピエタリ・インキネンなど著名指揮者や国内外オーケストラと多数共演している。使用楽器は、アントニオ・ストラディヴァリ黄金期の“Tartini”1711年製。(宗次コレクションより貸与)。





分になりました。そう、この頃は右手のフォームを直すのに必死だった覚えがあります。

——僕も昨年からヴァイオリンを始めてみたら、右手がとても難しくて……って、レベルが全然違う話だけでも(笑)。

弓と上腕二頭筋が平行になるように、というフォームの改造を、シゲティのお孫さんのフローリン・シゲティさんやジャン・ジャック・カントロフさんにアドバイスを受けながら、徹底的にやっていたんです。この時ようやく、ずっと引きずってきた課題に解決策を得た気がしました。

——十代での留学生活はいろんな苦労があったのでは？

部屋の窓がちゃんと閉まらないとか、いろんなトラブルは日々ありましたが、周りにはもともと若くから一人で来ている人もいたし、小澤征爾の「僕の音楽武者修行」などを読むと、はるかに大変な思いをされているので、意外に大丈夫でしたね。

現代音楽と多面的なプログラム

——いわゆる「現代音楽」に触れたきっかけを教えてください。

中学時代に近所に住んでいた友人がクラシック好きで、彼と一緒に、シヨスタコーヴィチの全交響曲やメシアンの「トゥーランガリラ交響曲」を聴いたりしたのが最初でしょうか。その後、知り合いのお医者さんが200枚くらいクラシックのCDをくださったんですが、その中にも現代音楽がいっぱいあった。シャリーノの声楽曲やベリオの「シンフォニア」なんかは印象に残っています。

——ああ、それは早熟ですね。

でも逆に、その頃はブルックナーの良さなんて全然わからなかったんですよ。数年前に、プロムシユテットとゲヴァントハウスによる「一番」を聴いて、ああ、こういう音楽なのかとようやく腑に落ちた。そういえば、中学時代には、シュトックハウゼンの「ヘリコプター 弦楽四重奏曲」を、朝起きる時の目覚ましに使ってた(笑)。
——……。それは早熟を飛び越しているかも。自分で弾くほうは？

16歳で受けたバガニーニ国際コンクールの課題曲の一つが、最初の体験でした。毎日一生懸命に楽譜を読んでいたら、楽譜の音型が鏡像型になっていることに気づいて……これを自分で発見したという喜びは今でも忘れられないですね。バリ時代にはベリオの「セクエンツァⅧ」に



「Toshi伝説」—柳慧芸術総監督就任20周年記念

「共鳴空間」 2021年2月13日(土) 15:00 神奈川県民ホール(大ホール)

出演:鈴木優人(指揮) 成田達輝(ヴァイオリン) 東京フィルハーモニー交響楽団(管弦楽)

鈴木優人:新作ファンファーレ(委嘱作品・世界初演) 一柳慧:ピトゥイーン・スペース・アンド・タイム

一柳慧:ヴァイオリン協奏曲「循環する風景」 一柳慧:交響曲第8番「リヴェレーション2011」

全席指定 一般4000円

「エクストリームLOVE」 2021年3月20日(土・祝) 神奈川県立音楽堂

Classical 13:00/Traditional 14:45/Experimental 16:30

全席自由 各単独券2500円 1日パス4000円 *各コンサート、インターミッションコンテンツの出演者、曲目等詳細はHPをご覧ください。

◎両公演共通チケット

一柳シート(24歳以下の学生)0円 ※一柳慧が学生の皆さまをご招待します。チケットかながわにて事前申込が必要です。

Toshi伝説セット券 7500円 ※「共鳴空間」と「エクストリームLOVE(1日パス)」のセット券

www.artspress.jp



このマークの記事にはWEB版だけの+αコンテンツも!

はじまり、ずいぶんたくさんさんの現代曲を演奏しました。これが現代音楽演奏の第一波。

——第二波は?

ヴァイオリニストの百留敬雄さんとの出会いがきっかけです。もともと同じジュニア・オーケストラにいた古い付き合いでもあるのですが、ある時に再会したら、ベルギーで現代音楽の演奏家として活躍されていた。それで、彼からずいぶんたくさんさんの楽譜を見せてもらっただけです。4〜5年前かな。これで血が騒いだというか、もっと知りたいという欲求がどんどん湧いてきた。

——昨年のソロ・リサイタル(オペラシティ「B↓C」)はファーニホウをメインに据えたプログラムでしたね。

そう、まさに古典と現代を結びつけたと思うようになったんです。あのファーニホウも本当に素晴らしい曲で。僕にとっては常に、説得力のあるプログラムというのがなにより大事です。古楽とか現代音楽とか、あるいは日本の作曲家だけを並べるといって単純なことではなく、音楽の何百年かの豊かな歴史が、選んだ作品から見えてくるような…そんなプログラムを作りたい。まだまだ模索中ですが、あと数年したら、もっと多面的

なプログラムを構成することができるようになります。

——そういえばブラックス弦楽四重奏団による「柳慧 弦楽四重奏全曲演奏会」にもいらしていたと聞きました。

あの時には、弦楽四重奏の0番から5番までが一つながりで聴けて、一柳先生のマインド・プロセスがどう移り変わってきたかが体感できました。ただ、実をいえば演奏会のと、どうにも悔しかったんです。なぜこれを日本のカルテットではなく、アメリカのカルテットが演奏しているのかと。

そして「Toshi伝説」

——「Toshi伝説」では、まずは県民ホールで、一柳さんの協奏曲「循環する風景」ですね。

まだスコア全体を見ている段階ですが、本当に面白い。特に奇抜なことをしているわけではないのですが、音楽のコンテンツがきわめて新しい。あるフレーズからフレーズへと進んでいくプロセス、その進む方向性がいつも新鮮なんです。こういう秘密があるのだからと思ったりします。

——一方、音楽室では、一柳さんと「クロ

イツェル・ソナタ」を共演されると。これは楽しみです。

こちらもすごく楽しみで、たとえば冒頭の独奏は、禅や借景といった要素をくわえて、ものすごくゆっくり弾いてみようかなと、今からいろいろと考えています。

——本日はありがとうございました。演奏会を本当に楽しみにしています。

my hall myself

私にとつての神奈川県民ホール・

神奈川県立音楽堂

横浜には15歳のときに全日本学生音楽コンクールの受賞者によるクリスマスコンサートに出演してから、何度も足を運んできました。また、コスモワールドの観覧車など、青春時代の思い出が詰まった場所でもあり、横浜でのコンサートのときはホームグラウンドに帰ってきたような感じがします。県民ホール、音楽堂での演奏は初めてなのでとても楽しみです。

取材・文:沼野雄司

(桐朋学園大学教授、

県民ホール・音楽堂芸術参与)

撮影:新江周平

「Toshi伝説」 一柳慧芸術総監督就任20周年記念 レゾナントスペース 共鳴空間

神奈川県民ホール



成田達輝
©Marco Borggreve



鈴木優人
©Marco Borggreve



東京フィルハーモニー交響楽団

©上野隆文



記者懇談会にて 左から鈴木、本條、成田、一柳(敬称略)

管弦楽作品で辿る、超高密度なレジェンドアワー!

一柳慧の神奈川県立芸術文化財団芸術総監督就任20周年を記念して、開催するプロジェクト「Toshi伝説」。神奈川県民ホールでは、「共鳴空間」と題し、一柳のライフワークともいえる管弦楽曲にスポットを当てたコンサートを開催します。

指揮者のみならず作曲家としても活躍する鈴木優人の新作ファンファーレからはじまり、東京フィルハーモニー交響楽団の首席陣による『ピトウイーン・スペース・アンド・タイム』、成田達輝をソリストに迎えた『ヴァイオリン協奏曲』循環する風景』、東日本大震災に触発されて書かれた『交響曲第8番』リヴェレーション2011』と、最後まで聴き逃すことのできない超高密度なプログラムで一柳の

創作の軌跡を辿ります。

一柳はさまざまな音楽作品を残してきましたが、その中でも特に交響曲については、毎日芸術賞や尾高賞を受賞した『交響曲『ベルリン連詩』』にはじまり、本年8月30日に初演された『交響曲第11番『ユシス』』(初演は本公演と同じく、鈴木優人指揮、東京フィルハーモニー交響楽団の演奏)まで11作品にのぼり、一柳が創作人生において最も心血を注いできたジャンルの一つといえるでしょう。

1933年に生まれ現在に至るまで、国内外の音楽シーンを牽引し続けてきたレジェンド・一柳慧の創作の軌跡を辿る本公演にご期待ください。

レゾナントスペース 「共鳴空間」

2021年2月13日(土) 15:00 (大ホール)

出演:鈴木優人(指揮) 成田達輝(ヴァイオリン)

東京フィルハーモニー交響楽団(管弦楽)

鈴木優人:新作ファンファーレ(委嘱作品・世界初演)

一柳慧:ピトウイーン・スペース・アンド・タイム

一柳慧:ヴァイオリン協奏曲『循環する風景』

一柳慧:交響曲第8番『リヴェレーション2011』

全席指定 一般4000円

一柳シート(24歳以下の学生)0円

※一柳慧が学生の皆さまをご招待します。

チケットかながわにて事前申込が必要です。

Toshi伝説セット券 7500円

※3/20神奈川県立音楽堂「エクストリームLOVE」(1日バス)とのセット券

「Toshi伝説記者懇談会レポート」
12月9日(水)、神奈川県立音楽堂で行われた「Toshi伝説」オンライン記者懇談会から登壇者のコメントを一部ご紹介いたします。

鈴木優人(指揮)「作品と演奏者の間に新たな交感・交流が生まれることを願っています。新作のファンファーレも作曲しています。」

本條秀慈郎(三味線)「音楽の流れを『水の流れ』に重ね、プログラム構成を練っています。今回がデビューとなる伝統楽器のアンサンブルにもご注目ください。」

成田達輝(ヴァイオリン)「私がこれまで培ってきた音楽のすべてを一柳先生の音楽を通してお見せしたいと思います。」

沼野雄司(監督)「『Toshi伝説』というタイトルは自由でポップな一柳さんの精神にピッタリと当てはまるものです。音楽家と観客が一緒になって一柳作品で遊んでもらいたいですね。」

一柳「鈴木さん、本條さん、成田さんをはじめとする素晴らしい音楽家のみなさんが、これからの音楽のあり方を示してくれること期待しています。」

記者懇談会のレポートを各公演ホームページに掲載しています。どうぞご覧ください。



成田達輝
©Marco Borggreve



萩原麻未
©Marco Borggreve



「Toshi伝説」 —柳慧芸術総監督就任20周年記念 エクストリームLOVE

神奈川県立音楽堂

みんな「イチヤナギトシ」!
音楽への「究極の愛」を遊ぶ1日!



ブルーオーロラサクソフォンカルテット
©ノザワヒロミチ(CAPSULEOFFICE)



J-TRAD ensemble-MAHOROBA



河合拓始



—柳慧 ©Koh Okabe

神奈川県立音楽堂の「Toshi伝説」は、きらめく才能が一堂に会する1日。今を時めくクラシック界のスター、成田達輝や萩原麻未、日本最高のサクソフォン奏者、平野公崇率いるアンサンブル「ブルーオーロラサクソフォン・カルテット」(BASQ)。NYやロンドンなどで国際的に活躍する三味線の本條秀慈郎を中心にした旬の若手邦楽奏者ユニット「TRAD ensemble MAHOROBA」。突き抜けた即興パフォーマンスで知られる河合拓始。「現代音楽を語らせたなら面白くないわけがない」片山杜秀、「エレクトロニクスあるところには必ずこの人の手がある」有馬純寿。そして「柳慧その人。全員の共通項はズバリ「音楽への究極の愛」!

三つのワードに導かれた各約1時間のコンサートからお好きなものをチョイスしてお楽しみください。

〈Classical〉

原智恵子らのもとでバッハやフランスのピアノ音楽などを幅広く学び、NYへ渡りケージラ、東京で高橋悠治らの親交を得た「柳」。大きなクラシック音楽の流れから「芸術家・柳慧」が生まれた過程をテーマに、その曲名をユニット名に冠するBASQによる、盟友武満徹が「柳」に捧げた「柳慧のためのブルーオーロラ」、成田達輝と「柳」のデュオによるベートーヴェン「クワイテル・ソナタ」などをお聴きいただけます。

〈Traditional〉

世界をフィールドにした創作の中で「柳」が強く提唱する「日本独特の時間感覚」。今その世界で、力強い若い世代が活発な創作を行ない、新しい音楽シーンを模索しています。「水の流れ」をテーマにしたプログラムで、三味線、箏や尺八などの楽器を使った日本の伝統音楽から東欧、北欧の音楽まで「日本の新しい音の世界」を「柳」がサポートする若い世代のアンサンブルでおくりまします。

〈Experimental〉

ほぼ7曲全編「図形」とできるだけ速く

大音量で(略)疲れ果てるまで演奏せよ」といったインスタレーションのみで書かれた「ピアノ音楽」。伝説の大曲を初めて公開一挙演奏したのは河合拓始。驚くほど多彩な音色とテクニクを「柳」に絶賛される「ピアノ」が弾ききるフィナーレで、「音楽上の事件」にお立会いください。

さらに、各45分のインターミッションではボワイエで、クロストークや、球が触れると音や光が出る「エレクトロニクス卓球台」のプレイ! あなたの好きなアーティストと対戦。なんてサブライズもあるかも...。入退場自由でまると楽しむなら1日パス。音楽への愛を共有する方はお客さまも含め「みんなイチヤナギトシ」です。自由に熱く、音楽を遊ばしましょう!



「エクストリームLOVE」

2021年3月20日(土・祝)

Classical 13:00/Traditional 14:45/Experimental 16:30

出演:「柳 慧(ピアノ/トーク)

成田達輝(ヴァイオリン) 萩原麻未(ピアノ)

ブルーオーロラサクソフォン・カルテット

J-TRAD ensemble-MAHOROBA

河合拓始(ピアノ) 片山杜秀 有馬純寿

全席自由 各単独券2500円 1日パス4000円

※1日パス(24歳以下の学生)0円

※「柳慧」が学生の皆さまをご招待します。チケットかながわにて事前申込が必要です。

Toshi伝説セット券 7500円

※1日パスと2/13神奈川県民ホール「共鳴空間」とのセット券

*各コンサート、インターミッションコンテンツの出演者、曲目等詳細はHPをご覧ください。

音楽堂ヘリテージ・コンサート 年間ラインナップ

神奈川県立音楽堂



「木のホール」で世界の至宝を聴く、新シリーズ。



オリ・ムストネン ©Outi Montosen



コンスタンチン・リフシッツ
©Naoya Ikegami



アンサンブル・アンテルコンタンポラン



プラハ・フィルハーモニア管弦楽団

©Petr Králík



イ・ムジチ合奏団



ミハイル・ブレトニョフ
©Rainer Maillard / DG



ゲルハルト・オピッツ
©HT/PCM

日本最初の本格的公立音楽ホールとして、数々の世界的巨匠を迎えてきた歴史と「木のホール」の美しい響きで知られる「室内楽の殿堂」神奈川県立音楽堂。その歴史の新たなページとなる新シリーズ「音楽堂ヘリテージ・コンサート」が今春スタートします。往年の「特別演奏会」、これまでの「ウィルトゥオーツ・シリーズ」の流れを受け継ぎ、コンセプトは「人類の至宝、歴史的遺産ヘリテージ」となっていくような、世界的音楽家による演奏会。音楽堂主催公演だけでなく、共催公演も含め、すべて音楽堂が太鼓判を押すラインナップです。2021年は、強靱なテクニック、コンポージャー・ピアニストならではの深い音楽的

思索で知られるフィンランドのムストネン、首都圏8館を結ぶベートーヴェン・ソナタのチクルスが昨年から延期となったリフシッツ、そしてロシアとドイツからはプレトニョフ、オピッツという押しも押されぬ二人の巨匠など、ピアノの超人たち。「ピアノセット券」で一挙鑑賞が、フランスからは、ブルーリーズが設立した世界最高の現代音楽アンサンブル「アンサンブル・アンテルコンタンポラン」が音楽堂のための特別プログラムを予定。一生に一度は、彼らの目の覚めるような演奏を浴びることをお勧めします。さらにプラハ・フィルハーモニア管弦楽団による「新世界より」モルダウ、イ・ムジチによる「四季」など「決定版」の演奏の数々。全

2021年「音楽堂ヘリテージ・コンサート」

- ① 4月 9日(金) オリ・ムストネン ピアノ・リサイタル
- ② 5月 1日(土) コンスタンチン・リフシッツ ピアノ・リサイタル
「ベートーヴェンへの旅」
- ③ 8月29日(日) アンサンブル・アンテルコンタンポラン
- ④ 9月18日(土) プラハ・フィルハーモニア管弦楽団
- ⑤ 9月26日(日) イ・ムジチ合奏団
- ⑥ 11月27日(土) ミハイル・ブレトニョフ ピアノ・リサイタル
- ⑦ 12月24日(金) ゲルハルト・オピッツ ピアノ・リサイタル

- ① 単独券 ②⑥⑦「ピアノセット券」①～⑦「年間セット券」
KAmE会員先行1/26(火) 一般発売1/28(木)
 - ② 単独券 KAmE会員先行1/26(火) 一般発売2/20(土)
- * 席種・料金等詳細は、特設サイトをご確認ください。
ongakudo-classic.com/

7公演「年間セット券」も1月発売します。
詳しくは特設サイトで！





©derrière Rideau アンサンブルK

音楽堂室内オペラ・プロジェクト第4弾 ブルーノ・ジネ作曲 「シャルリー～茶色の朝」

日本初演 (フランス語上演・日本語字幕付)

神奈川県立音楽堂



ある朝突然「茶色のペット以外飼ってはいけない」という法律ができれば、どうしますか？

バロックから現代まで「自由で多彩な室内楽の可能性」を紹介する神奈川県立音楽堂の室内オペラ・プロジェクト。今秋は「フランスから世界を揺るがせた小さな物語」を原作にした日本初演の室内オペラをお届けします。原作『茶色の朝』は、フランスの心理学者フランク・パブロフが、ごくふつ々の市民が「何も考えなかったために」ファシズムに巻き込まれていく怖さを、子どもでもわかるやさしい言葉で描いた物語です。

ある朝、茶色のペット以外飼えなくなった。原作のシャルリーと主人公は友人同士。仲良くカフェで新聞を読み、平凡で静かな日常生活を送る二人は、それぞれ白黒の犬と猫を可愛がっていました。が、茶色のペット以外許さないという法律が出来、それぞれのペットを殺処分し、茶色の犬と猫に飼い替えてしまいます。「茶色に守られた安心、それも悪くない」と自分に言い聞かせながら。しかしその安心が続くのも、さらに厳しい、新しい法律ができるまでのことでした——

世界に広がる『茶色の朝』

フランスで極右政党が台頭した1990年代後半、危機感をいだいたパブロフは多くの、特に若い人に読んでもらおうと著作権を放棄し、わずか1ユーロでこの本を出版します。その後大統領選で再び極右候補が台頭した時、人々はこの物語を発見しました。動揺するフランス国内で多くの人が『茶色の朝』を読み「極右にノン」の運動につながります。パブロフはベストセラー作家になり、結果は極右候補の敗北となりました。「小さな安心」を求める市民の物語が、現実の市民を自覚させ、フランス社会を変えたのです。以後この本は全世界で広く読まれるようになり、日本でもSNS等で静かなブー

音楽堂室内オペラ・プロジェクト 第4弾 ブルーノ・ジネ作曲「シャルリー～茶色の朝」

2021年10月30日(土)・31日(日)

出演:アンサンブルK(ヴァイオリン/チェロ/クラリネット/ピアノ/打楽器)

アマンディーヌ・トラン(ソプラノ)

第一部:アンサンブルKによる室内楽

パウル・デッサウ「ゲルニカ～ピカソに捧げる」(日本初演)

ブルーノ・ジネ「パウル・デッサウの“ゲルニカ”のための

パラフレーズ」(日本初演)

第二部:ブルーノ・ジネ

「シャルリー～フランク・パブロフの『茶色の朝』にもとづく

ポケット・オペラ」(日本初演)

第三部:作曲家ブルーノ・ジネを囲むクロストーク

*詳細は音楽堂室内オペラ・プロジェクト特設サイトを

ご覧ください。

www.ongakudo-chamberopera.jp/

ムをまきおこしています。私たちの鏡のようなシャルリーの姿を通して、「人権」「自由」「多様性」が注目される社会のありようを考えてみるのはいかがでしょうか。

フランスからアンサンブルと作曲家が初来日。トークやミニコンサートも

フランス気鋭の作曲家、ブルーノ・ジネがこの物語を、器楽5人、ソプラノ歌手一人による一幕のオペラに仕立てました。舞台初演を行ったアンサンブルKが作曲家とともに初来日し、オペラ本編をはじめ前後に室内楽コンサートと作曲家を囲むクロストークを繰り広げます。詳細は「音楽堂室内オペラ・プロジェクト特設サイト」で今後発表。どうぞご期待ください！



第108回 舞台芸術講座 チェンバロの魅力Ⅷ Mélanges ~混ぜる

神奈川県民ホール

2021年3月27日(土) 14:00 (小ホール)
出演:大塚直哉(チェンバロ・お話)
J.S.バッハ:バルティータ第2番 / 短調 BWV826
F.クーラン:「クラヴサン曲集第2巻」より第8オールドル
松岡あさひ:新作(神奈川県民ホール委嘱作品・初演) 他
全席指定 一般2000円
学生(24歳以下・枚数限定)1500円



大塚直哉の演奏とお話で人気のシリーズ「チェンバロの魅力」。2013年から続く本シリーズは今回をもって最終回を迎えることとなりました。集大成となる第8弾は「Mélanges ~混ぜる」をテーマにお届けします。作曲様式や時代など、異なるものが混ぜた時どんな響きが生まれるのか…。古いフランスの様式で丁寧につくられた神奈川県民ホールのチェンバロの響きをお楽しみください。

また、本シリーズでは、作曲家松岡あさひの新作(神奈川県民ホール委嘱作品)を初演してきました。これまでに、「むかし、むかし、橋の上で」「らんこ」「星降る夜」の3曲を発表。これらは組曲となっており、ついに完結編をお聴きいただけます。15世紀に活躍したチェンバロと、21世紀の作曲家が混ざり合った時どんな化学反応を起こすのか、どうぞご期待ください。

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2021 (TPAM in Yokohama 2021)

KAAT神奈川芸術劇場



DULL-COLORED POP 「福島三部作」

©bozzo



アイサ・ホクソン「Manila Zoo (ワーク・イン・パンデミック)」
Photo by Tsai Yao-Cheng (courtesy of the artist, Künstlerhaus Mousonturm and Taipei Arts Festival).

TPAM(ティーパム)は、横浜を中心とする首都圏の劇場やアールスペースで多彩なジャンルの作品が上演される催しです。今年には、新型コロナウイルスの世界的流行のため、「いま・ここ」との遭遇とその経験の共有としてのライブ・パフォーマンスの意味を再考し、オンライン開催も取り入れ、海外や遠隔地等から参加可能な作品も上演されます。KAAT神奈川芸術劇場では、2020年度岸田國士戯曲賞受賞作の「福島三部作」、そしてフィリピンからオンラインで参加するアイサ・ホクソンの「Manila Zoo (ワーク・イン・パンデミック)」が開催されます。

TPAMはKAAT神奈川芸術劇場がオープンした2011年から横浜で開催されて

2021年2月6日(土)~14日(日)
【KAAT神奈川芸術劇場でのプログラム】
●2月9日(火)~11日(木・祝)〈中スタジオ〉
アイサ・ホクソン「Manila Zoo(ワーク・イン・パンデミック)」
●2月9日(火)~2月14日(日)〈大スタジオ〉
DULL-COLORED POP「福島三部作」

【その他の会場でのプログラム】

情報は随時更新中。
詳細は公式ウェブサイトをご覧ください。

チケット取扱い

Peatix peatix.com/group/16812/

※チケットがながわでの取扱いはございません。

国際舞台芸術ミーティング in 横浜事務局
045-264-6514 www.tpam.or.jp/2021/

れるようになり、今年10年目を迎えます。次回からは創造都市横浜との連携をより強化し、また国際的芸術交流を同時に追求する「TPAM横浜舞台芸術ミーティング」(仮称)として、新たな展開を目指します。

かながわ
芸能
●
歳時記

第27回

一連の農作業を神楽で演じ、豊かな稔りを祈る
田打舞神事
(高座郡寒川町／寒川神社／2月)



拝殿で黒尉・白尉の2名が舞う



田打舞神事は、毎年2月17日に寒川神社の祈年祭で、五穀豊穡と産業振興を祈願し奉納されます。

伝来の黒尉・白尉の翁面をつけた社人と神職が、笏拍子・太鼓・鼈・笛にあわせ、地謡と囃子を織り交ぜながら舞う神事です。別名「福種時」ともいわれています。

“田おこし”から“収穫”までの一連の農作業を神楽で演じ、田をおこし・水を引き入れる「田打」、田の草を取り・畔を作り・田を平らにする「草敷・代ならし」、粉種をまく「種時き」、寒川大明神に豊作を祈願する「祝詞」、よく伸びた早苗を取り束ねていく「苗ほめ」、一段落して昼餉をとる「昼飯」、田植、稲を刈り神々にお供えする「稲刈」、豊作を喜び宴を催し感謝する「稲藪」の順に進んでいきます。

田打舞神事でまかれた粉種は町内各農家へ分けられ、他の種と一緒に混ぜてその年に栽培されます。

●同時期(2月)開催のその他の祭り

箱根神社節分祭(追儺式)箱根町／箱根神社／1月2日
*新型コロナウイルス対策のため、中止・変更となる場合があります。ご確認の上、お出掛けください。

住所:神奈川県高座郡寒川町宮山3916 寒川神社
交通:JR相模線「宮山駅」下車 徒歩約5分
日程:2021年2月17日 午前10時~
お問合せ:寒川神社 0467-75-0004

more! カナガワ

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、公演日・会期/出演者・内容等が変更となる可能性があります。最新情報はHPをご覧ください。

神奈川フィルハーモニー管弦楽団
定期演奏会 県民名曲シリーズ第10回

2021年3月20日(土・祝) 神奈川県民ホール 川瀬賢太郎(指揮)
青木エマ(ソプラノ) 高野百合絵(メゾソプラノ) 大山大輔(バリトン) 加未 徹(バリトン)
ベートーヴェン/ウェリントンの勝利 Op.91 音楽劇による「レ・ミゼラブル(ヴィクトル・ユゴー原作)」~若者たちの60分のレ・ミゼ~ 他
S 6000円 A 4500円 B 3000円 (ユース・シニア割引あり)
神奈川フィル・チケットサービス 045-226-5107 (火・水曜10:00-13:00)
www.kanaphil.or.jp/ @kanagawaphil @instagram.com/kanagawaphil

神奈川近代文学館

スポット展示・収蔵コレクション展19「生誕100年 金達寿展」

2020年12月12日(土) ~ 2021年3月14日(日)
開館時間:9:30-17:00 (入館16:30まで) 休館日:月曜日
金達寿(1920~1997)は在日朝鮮人としての経験を核に、作品を通して人間とはなにか、どうあるべきかを問い続けました。生誕100年を機に、その生涯と作品を当館所蔵「金達寿文庫」資料を中心に紹介します。
観覧料:一般260円(65歳以上、20歳未満割引あり/中学生以下無料)
TEL.045-622-6666 www.kanabun.or.jp

神奈川県立近代美術館 葉山

企画展「フランス・ベーコン / パリー・ジュール・コレクションによる」
2021年1月9日(土)~4月11日(日) 休館日:月曜日
アイルランド出身の画家フランス・ベーコン(1909-1992)の貴重な初期作品や、制作の過程を解き明かす資料など約130点を日本で初公開します。
観覧料:一般1200円(65歳以上、20歳未満割引あり)
TEL.046-875-2800 www.moma.pref.kanagawa.jp

神奈川県文化課

かながわ短編演劇アワード2021

2021年3月20日(土・祝)・21日(日)
全国から選抜された8団体が30分以内の「短編演劇」で表現の限界に挑む「演劇コンペティション」を開催します。また、3月20日(土・祝)の上演後は「戯曲コンペティション」の公開審査会も開催します。今の時代だからこそ生まれる新たな作品を是非ご覧ください。
一般1000円 高校生以下500円
www.pref.kanagawa.jp/osirase/0204/magfes21/tanpen/index.html
かながわ短編演劇アワード2021事務局(tvkコミュニケーションズ) 045-548-4512



1964年東京オリンピック 国会議事堂でのファンファーレ吹奏
写真提供：フォート・キシモト

音楽の小箱

ファンファーレ

知れば、
知るほど、
好きになる

式典や競技会の幕開けを告げ、高揚感をもたらしてくれるファンファーレ。その語源はアラビア語の「anfár（トランペットの意）」といわれます。

中世の十字軍遠征で中東からもたらされたトランペットは、金管楽器の中でも鋭い響きで敵を威圧する効果に優れていました。そんなトランペットを王侯貴族たちは「権力の象徴」として扱うようになります。彼らは、自分たちの入場を知らせるために、トランペットの長いベルに家の旗を下げさせ*、吹奏させるのを常としました。楽譜に残る古いファンファーレの名曲、オペラ最初期の傑作モン

テヴェルディ「オルフェオ」の冒頭では、ティンパニを伴う5本のトランペットが華麗な吹奏をしますが、これはオペラの内容とは関係なくモンテヴェルディが仕えたマントヴァ公の来場を知らせるためのものでした。

18世紀の市民革命の時代を経てファンファーレは王侯の専有物ではなくなり、さまざまな祝祭的な場のため、あるいは管弦楽曲の一部として作られるようになります。

それらの中には、金管楽器の改良も相まって、より多彩な楽器編成、より凝った構成のものが数多くあります。例えば1984年 ロサンゼルス・オ

リンピック開会式で演奏された「ファンファーレと主題」では、金管・打楽器に木管・弦楽器を交えた大管弦楽による壮麗な楽曲で、作曲を手掛けたジョン・ウィリアムズはこの作品でグラミー賞に輝きました。

昨年は残念ながら東京オリンピック2020の新作ファンファーレを聴くことはできませんでしたが、2月のコンサート「共鳴空間」レゾナンススペース（神奈川県民ホール）では鈴木優人の新作ファンファーレが披露されますので、ぜひご期待ください。

*このタイプのトランペットは今日でも「ファンファーレ・トランペット」という名でファンファーレの吹奏で用いられています

楽器ミュージアム

三味線

三味線は、和楽器の中でもとりわけ身近な楽器です。そのルーツは中国の「三弦」サンシエン。ニシキ蛇の皮を張った胴に長い棹さおに渡した弦を爪で弾く三弦は、琉球に渡って「三線」となり、16世紀後半に大阪・堺に伝来したといわれています。

三線は琵琶より音域が広く、棹にフレットがないので、自由に旋律を演奏でき、弦が胴の皮に共鳴して打楽器のようなリズム効果も出せるため琵琶法師に重宝され、爪ではなく撥はちを用いる、蛇皮ではなく猫や犬の皮を使うなどの工夫を重ねて日本独自の「三味線」が作り上げられていきました。

三味線は、糸巻きがある天神、棹、胴から成り、長さは1mほど。太さの

異なる3本の弦*を伸ばし、胴体を貫く棹の末端にある組紐ねお（根緒）で留めます。弦と胴の間には弦の振動を皮に伝える駒を挟みます。駒は糸巻のすぐ下にも一つあり、これは上駒といえます。

庶民文化が花開いた江戸時代、浄瑠璃や歌舞伎、座敷での語りやうた、各地の民謡など多くの曲種・流派が誕生しましたが、その伴奏をつとめた三味線は、音楽にあわせて音域や音色が異なるさまざまなタイプに改良されていきました。棹を太くすると胴や駒、撥も大きくなり低く太い音を、反対に棹を細くすれば胴は小さく、軽い駒と小さめの撥を使って高く軽妙な音を作るのです。こうして三味線は、大きく

弦はいずれも絹糸で、一番太い「一の糸」は低音域、「二の糸」は中音域、細い「三の糸」が高音域をカバー。西洋楽器のように音の高さが定まっているわけではなく、うたう人の声の高さや弾く状況に合わせて調整（調弦）します。

ほそざお ちゅうざお ふとざお
細棹・中棹・太棹の

3タイプに分かれました（曲種によってさらに細かな違いがあります）。

三味線の一番の特徴は「サワリ」といわれます。これは、弦のうち一番太い一の糸のみ上駒を通さずに、わざと棹に微妙に触れさせて「ビーン」という濁るような音の広がりを作る仕組み。響きの余韻に風情を感じる日本ならではのものです。





イラスト:遠藤裕喜奈

ジュゼッペ・ヴェルディ 「ナブッコ」

1813年、ジュゼッペ・ヴェルディは、イタリア北部パルマ地方の寒村で、小さな宿屋の息子として生まれました。幼少期から音楽の才能に恵まれ、9歳の頃には村の教会のオルガニストを務めていたといえます。そんな彼を見込んだ近郊の街ブッセート市の有力者アントニオ・バレッツィが支援者となります。

1836年、ヴェルディはブッセート市音楽監督に就任し、支援者バレッツィの美しい娘マルゲリータ嬢と結婚します。翌37年には長女ヴァージニアが生まれ、38年には長男イチリオが誕生。幸せな生活が続くかに見えましたが、長男誕生の直後に長女が1年4か月で亡くなってしまいます。ヴェルディは生活を変化させるため、そして、作曲家として挑戦するため、家族と共にミラノへ向かいます。

1839年、ヴェルディは処女作オペラ「オベルト」を完成させ、スカラ座での上演が決定します。しかし、不幸は続き、初演のリハーサル中に息子が1年2か月で死亡。さらに、次回作を作曲中の翌40年、今度は最愛の妻マルゲリータが亡くなります。わずか3年間に妻子を全て失ったヴェル

ディ。絶望のあまり音楽への意欲を失ってしまうのです。

同年末、ヴェルディは、ミラノの街角で旧知のスカラ座支配人と出会います。彼の才能を惜しむ支配人は1冊の台本を無理やり手渡しました。帰宅したヴェルディは台本を投げ捨てますが、その時、偶然開いたページの一行が目に入ります。それが「行け、わが思いよ、黄金の翼に乗って」です。歌詞は続きます「悲しく嘆きの響きを紡げ、この苦しみを耐えさせてくれる調べを」と。

これをきっかけに情熱を取り戻したヴェルディは、翌年の秋に曲を完成させます。それがオペラ「ナブッコ」です。1842年3月、スカラ座での初演は、観客の熱狂を呼び起こしました。同年秋には早くも再演され、スカラ座の新記録となる57回上演されます。これ以降ヴェルディは次々と傑作オペラを生み続けることとなるのです。

ジュゼッペ・フォルトゥニーノ・フランチェスコ・ヴェルディ
Giuseppe Fortunino Francesco Verdi (1813-1901)

19世紀を代表するイタリアのロマン派音楽の作曲家。「オペラ王」と呼ばれる。代表曲オペラ「ナブッコ」、オペラ「椿姫」、オペラ「アイダ」、ミサ曲「レクイエム」など。

REVIEW

神奈川県民ホールギャラリー 2020年度企画展 「大山エンリコイサム展 夜光雲」

2020年12月14日(月)～2021年1月23日(土) 神奈川県民ホール〈ギャラリー〉



Photo: Masanobu Nishino

神奈川県民ホールギャラリーは12月14日より近年ますます注目を集める気鋭の作家、大山エンリコイサムの個展を開催しています。大山はエアロゾルの見えないものの存在と圏域、匿名性のあるビジュアルから呼び起こされるイメージの交錯を表現した作品を展開しています。さらにギャラリーの構造を意識した空間構成により、非常に濃密な鑑賞体験を創出しました。大山にとって過去最大規模の展示であり、会期初日より多くの方々にご来場いただいています。1月17日はこの展示室内にて音楽プロジェクト「Toshi伝説」第一弾のチェンバロと笙のコンサートを予定しており、作家とともに現代アートと音楽の交流に挑みます。巧妙に計算された広い展示室の中で、ゆっくりと本展「夜光雲」を味わっててください。展覧会は1月23日(土)まで。

お客さまの声

第1展示室がよかったです。目を閉じれば夜光雲のざざめき 私も夜のじまにとけむ

エアロゾルやスタイロフォームを切断する身体運動等、物理的な現象をうまく作品に取り込んでいるなと思いました。芯のあるかっこいい作品というのが全体的な印象です。

大きな空間の使い方や光の大胆な演出、夜光雲というコンセプトを浸りこんだ作品で見事に表していると感じました。

公益財団法人神奈川県芸術文化財団をご支援いただいている方々

公益財団法人神奈川県芸術文化財団では、賛助会員制度を始めとしたさまざまなご支援の仕組みを通じて、広く皆さまからご寄附・お力添えをいただいております。

公益財団法人神奈川県芸術文化財団 賛助会員

法人賛助会員 株式会社アクトエンジニアリング/アズビル株式会社/学校法人岩崎学園/株式会社ヴォートル/株式会社エス・シー・アライアンス/株式会社NHKアート/株式会社勝烈庵
一般財団法人神奈川県教育福祉振興会/公益財団法人神奈川県結核予防会/株式会社神奈川孔文社/株式会社神奈川保健事業社/神谷コーポレーション株式会社/川本工業株式会社
かをり商事株式会社/株式会社共栄社/株式会社ケイエスピー/株式会社KSP/株式会社合同通信/株式会社シグマコミュニケーションズ/株式会社ジェイコム湘南・神奈川横浜テレビ局
株式会社清光社/月島機械株式会社/株式会社テレビ神奈川/東工株式会社/ナイス株式会社/株式会社日建設計/日産自動車株式会社/日生商工株式会社/日総ブレイン株式会社
日本発条株式会社/株式会社野毛印刷社/バナソニックLSエンジニアリング株式会社/平安堂薬局/株式会社ホテル、ニューグランド/一般社団法人本牧関連産業振興協会
丸茂電機株式会社/三沢電機株式会社/森平舞台機構株式会社/ヤマハサウンドシステム株式会社/株式会社有隣堂/株式会社豊商會/株式会社ユニコーン/株式会社横浜アーチスト
横浜新都市センター株式会社/横浜信用金庫/弁護士法人横浜パートナー法律事務所/横浜ビルシステム株式会社/株式会社ワイイーソリューションズ(匿名:4社)
永年個人賛助会員 川村恒明 個人賛助会員 味田健一/岩間良孝/岡田博子/小川 浩/黒瀬博晴/小山明枝/坂詰こと葉/高岡俊之/中澤守正/橋本尚子/藤原靖也/三宅浩二/渡邊政彦
(匿名:3名)

協賛・協力

能舞台協賛 ナイス株式会社

協力 アサヒビール株式会社/神奈川総合設備株式会社/神奈川トヨタ自動車株式会社/株式会社崎陽軒/株式会社野毛印刷社/株式会社富士住建/三菱地所株式会社

(敬称略 2020年12月21日現在)

ご寄附・ご協賛・ご協力のお申込み・お問合せ：本部経営企画課 045-633-3760 www.kanagawa-arts.or.jp/support/



神奈川県では、文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域のにぎわいをつくり出す、マグネット・カルチャー略して「マグカル」の取組を推進しています。

マグカルQ

人生的一幕を、観に行こう。

神奈川文化プログラム



劇場の達人 眼鏡

同じ曲でも違う曲?!

え・ユキナ



Kame かながわメンバーズ 登録無料!
メルマガ無料配信
KANAGAWA members チケットの先行予約が可能
登録はWEBで! www.kanagawa-arts.or.jp/kame

神奈川芸術プレスはここにあります。
神奈川県内の主な公共施設の情報コーナー、首都圏の公共ホール・公立図書館・博物館・書店・銀行等に配架しております。
WEBでも読めます! www.artspress.jp

MAGCUL 神奈川県発、文化発信ポータルサイト
MAGCUL マグカル ドット ネット
MAGCUL.NET



mobility life

みんなの暮らしに
ちよっと楽しく
ちよっと快適な
モビリティライフを。



神奈川トヨタ自動車株式会社

〒221-0052 神奈川県横浜市神奈川区栄町7-1

<https://www.toyota-mobility-kanagawa.jp/>

編集後記

年が明け、いよいよ「Toshi伝説」開催目前となりました。お楽しみに!(お亀) 今年はクロイツェル・ソナタを聞き比べます!(塚) 昨年は舞台芸術ファンには何かと辛い1年でしたが、今年は2年分の感動を体験したいと考えています。(倉)